![C:\Users\zenrin\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files\Content.IE5\OYLOII2Q\MC900228485[1].wmf]()園長だより　平成２９年１２月号（20171215）

園長　平澤　正則

　“読み書き算盤”や“受験勉強”などに代表される記憶することが中心の学習によって養われるのが認知能力といわれるものです。非認知能力とは，思いやり，誠実さ，忍耐力，対処能力，創造力など，いわゆる数値化できない人間の力をいいます。先日の園長研修会で『学力の経済学』という本を出している講師の中室牧子先生の話の中に，普段の経験上何となくわかっていたことではあるが腑に落ちるものがありましたので書き留めました。

　先生によると，日常のいろいろな場所で行われる教育談義から政府の教育方針を決める会議まで，日本社会では“私の経験からすると・・・”という意識がかなりの頻度で表現されるそうで，そう聞くとなるほどと思いあたります。これは，科学的根拠よりも有識者の主観が政策の方向性をリードするということです。同じ政府の会議でも，経済や外交の議論の場では“私の経験”という言葉やそれを想像させる言葉はほとんど聞かれないそうです。

　経済学では，“教育は投資”にたとえるのだそうです。いくら投資していくら儲かったかその効率を表すのが“収益率”です。ものを教える時，４０歳の人に１０万円をかけるより同じ１０万円でも３歳の子どもにかけたほうがより多くを吸収し，その結果より多くの成果を残す可能性があり実際そうなので，収益率は後者の方が高いといえるのだそうです。

　このような教育効果の測定が現代では“私の経験”などという主観ではなく“多くの実験”によりなされているというのです。講演の中ではいくつかの例が紹介されました。ほとんどがアメリカ国内の幼稚園や大学，機関のものですが，その話の中で私の心に残っている部分は，『将来の成功に大きく関わる自制心ややり抜く力は鍛えて伸ばすことができる非認知能力である。』というものです。『しつけ』などもこれに入るようで返事やあいさつもこの部類といえます。『夏休みの宿題を休みの終盤にやる子どもはその後の人生で禁煙やダイエットができない。』のだそうです。生活保護費受給率，逮捕率が低いのはきちんとした幼児教育がなされた人だそうです。冗談か本当か疑わしいと思えますが，長年の多くのデータを基にした説なのだそうです。このように実験や追跡調査を基にした研究が多くなされ，今までなんとなくそうだと思っていたものが実証されつつあるようです。

　研修の結論。主観に頼りすぎるな。謙虚に他の意見を聴け！というところでしょうか。

研修の報告は以上にして，そうはいっても私などはやはり自分の４０年間の蓄積データに頼るところが大きいと思いますが，できるだけ多くの他の人の意見を聴きながら課題解決の道を探っていきたいと思います。そういうわけで，どうぞ遠慮なくいろいろなご意見を頂戴したいと考えております。“３人寄れば文殊の知恵”というようにしたいものです。